

先生のための鑑賞プログラム

研修の様子

令和4年12月27日の冬期研修会には中学校だけでなく小学校からの参加もあり、**府下全地区から29名**が集まった。

国立国際美術館で開催されていた「すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合」展を観覧し、4~5人の6グループに分かれ一つの作品について対話しながら鑑賞を深めた。

また、選んだ作品について実際にどのような授業を展開できるかについてグループで話し合い、模造紙に授業案をまとめ、全体発表につなげた。発表ごとに学芸員の藤吉祐子さんから、それぞれの作品の解説とともに指導助言を頂くという流れで研修を行った。

鑑賞は、まず個人で会場全体を約20分でみてまわった。次にグループで約80点の作品の中から「授業をつくる」という視点で1つの作品を選び、約60分かけて「みる」ことを行った。複数の視点からの意見交流により、深みのある鑑賞の時間となった。

授業案をまとめるワークショップでは、初めて出会ったメンバーにも関わらずファシリテーター役を中心として熱気ある話し合いが見られた。ゼロからの対話でも、「作品」というバウンダリーオブジェクト

（人と人が境界を超えて交わることを促すもの）を介することによって自分の意見を表明しやすくなる。対話による鑑賞教育でも、作品や視覚教材を介して、それぞれの経験や価値観、ものの感じ方が表明しやすくなり、意見交流が活発になることが期待できる。学びの視点を絞ってからは、どのグループでも実際の授業をイメージしながら、手や言葉を使い、考えられること全てを出し合い練り上げていく様子が見られた。他者の意見に頷く姿や新たな考えを見出そうとする姿など、生き生きとしたグループワークがそこにあった。

「対話」から得られる体験的な学びは無数にあるということが感じられた研修となった。

来年度に向けて

参加者アンケートから一部抜粋した。

長時間にわたって作品に向き合うことの大切さを感じました。一つの作品に時間をかけることによってどんどん様々な解釈が生まれ、発想が膨らんでいきました。様々な解釈が生まれるためにも、教師側のサポートが大切だと感じました。

泉北地区 中学校



作品ごとにどのように鑑賞をしてどのようなことを伝えようか学ばせようかと見ることができました。一つの作品を通してわかること、複数の作品を通して考えることなど柔軟に作品と対話していくことが大切だと思います。抽象美術でもいろいろな広げ方、可能性があると改めて感じました。 その他 中学校

生徒に自分の感じ方、考え方を押しつけるような授業をしていたと反省しました。美術の授業において人それぞれ意見が出せたのが今日の研修だったので、生徒がそれぞれ意見を出したり、考える時間を多くとっていきたいと感じさせられました。 三島地区 中学校

様々な先生方の視点を知れて生徒に対する授業の仕方や面白い工夫がもっとできるなど感じました。日ごろから美術館などの紹介はしていますが、それをどのように授業へ取り込めるかをもっと工夫できるなど思いました。生徒と一緒に楽しめるような授業工夫がもっと必要だと感じました。 南河内地区 中学校

色々な感じ方があり、一人では発見できないこともグループワークをすることにより新たな発見も見つかり、とても楽しかったです。また、一つの作品に時間をかけて鑑賞することで自分の中で作品を見る目に変化していくことが分かりました。 三島地区 中学校

鑑賞のさせ方もいろいろあると教えていただきました。ただ、見せるだけではなく、どのように見せるかによって子どもたちから引き出せること、引き出せるものも違ってくると思いました。 泉北地区 小学校

はじめて会った先生方とゆっくりお話ししながら、一つの作品を4人それぞれの見方があるそれをすり合わせていくというのがとても楽しかったです。普通の生活の中で違いを見つけると違和感になることが多いですが、作品鑑賞だと自分を広げることになるというのがとても面白いなど思いました。 三島地区 小学校

アンケートの内容から、この研修を通して多くの参加者が対話による鑑賞教育のイメージを体感できたことがわかる。ぜひ、参加者一人ひとりが体感したこの学びを、今後の授業に落とし込んでほしい。

そして、次年度以降の研修で行いたいことについては、以下のような期待が込められていた。

「一クラス分の生徒作品を持ち寄って交流ができればいいと思う。」

「鑑賞の授業に自信が持てないので、鑑賞分野を取り入れた研修があるとうれしい。」

「作品を作ることが苦手な子供も参加できる鑑賞の授業は今後の大きな可能性を感じる。今後も美術館を利用した研修の機会があるとありがたい。」

「評価についての話がしたい。」

「指導要領に沿った生徒作品の評価事例の交流会など。」

これらにも応えられるよう、今後も企画・運営を進めていきたい。



白髪一雄《天雄星 豹子頭》(1959年)の前でグループワークする姿